京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

東拓人物評論（十四）

▲總秘書役長▼（二） 翠山

氏は性來世才に長じ、智慧に富む、世俗の趨向を究め、時代の嚮背を圖り而して後巧みに身を立て世に處するが如き所謂常世的處世法の術策は氏の最も得意とする所なり既に當世的處世法の術策を解す、內容よりも外觀を選び實質よりも形骸を尊び、實名よりも虛名を重んずる故を以て重厚の姿勢實の態確く自ら持し、高く世に標榜せんとするが如き性情は氏に於て望む能はざる所なり、されど氏は機に觸れ折に際し極めて洒々落々の風を裝ひ人をして嘲笑の間自ら卓落たる一個の小英雄たるの感を抱かしむるものありと雖も其の實然らず、居常翼々として一身の毀譽に注意し、併せて他人の氣配に着目し一意自已の利益と顧慮とのみを念ならしむると同時に虛名を博し、外觀を裝はんとするもの、如し、

否な氏を知れるもの、言に氏は寧ろ虛榮心の權化なると共に物質的の慾望亦激烈なり而も未だ曾て儲かりしタメシなしと、思ふに虛榮心の權化なりとは聊か酷評に失するの嫌なきに非ざれど少なくとも氏の性質が氏を知れる總ての人をして虛榮心の熾激なる人物なりと思惟せしむるは爭ふべからざる定評なり、而して氏が虛榮心を滿足せしめんとて努むる半面に於て物質的の慾望を充たさんことに汲々たりとの評も又強ち中らざるに非ざるなり何となれば氏が或る一部に於ける從來の閱歷は事實に於て之を語るものあればなり、蓋し氏は今より二三年以前當地に來往せしが當時氏は何等の爲すこともなく、浪々として起居し世人をして一見不可思議の感を抱かしめたり、而も氏は其の實晏如として何等の爲す事なかりしに非ず終日齷齪として日も維れ足らず狼眼鼠目常に何物をか獲んとして東奔西走し、一攫千金の利を博せんとに腐心し居りしなり思ふに乘恐是等の人物を目して志士と稱し又は美裝宏宅に入るには佳肴あり出るには輕車あるを以て「働きのある人物」なりと稱せども、其の實然らず、美裝宏宅は世俗を昏ます招牌にして佳肴輕車は自分を衒ふ要素たり之れ所謂ヒヤプチヤブ屋と稱するものにして氏は當時紛れもなく此のヒヤプチヤブ屋の一人なりしなり、而も當時氏は幾多のヒヤプチヤブ屋の一人として大に東奔し西走せし割合には僅一文も懷を肥すものなかりしは氏に取つて頗る畢生の恨みなりしなるべし、

文苑

初戀 放浪子

故鄕の春色は如何とは今日此頃異鄕に在るものゝなべての感想ならむ、想起す、少年時代學校よりの歸途、同級の愛する少女と手を携へて黃金色なす菜の花畑に逍遙し、雌雄の蝶が花上に戲るゝを見て、互に成長の後は彼の蝶の如き睦ましき夫婦たらんと誓ひぬ、まだ卑猥なる考へなき無垢の小供なりと雖も、何となく互に離れがたなき心地ぞせられたりき、將さに是れ初戀なり、神聖の戀愛なり、其後余は笈を負ふて東都に學ぶ、其出發の前夜裏の菜畑にて互に涙を以て別を告ぐ矢張り菜の花盛りなる頃なりき、余は故ありて三年間鄕里に歸省せず三年目の恰も卯月に彼女は最も切なる玉章を送り來る、父母の切望もだしがたく某方に嫁するの止むを得ざるを細々と記せり、余は內部の事情を了知せざるを以て嫁するの當然なるを言ひ送りたりしが、爾來十有余年彼女は最早人の母となりけり、而も三人の子福者なり、余は學業を終るや南船北馬未だに席暖かならず、人の行末と水の流れは分らぬとの諺も理りなれ、余は何處に居るも年每に卯月の頃となれば、故鄕の春色に憧るゝと共に彼女と菜の花畑に逍遙したることを追懷して更に何今彼女を想ふ、余が胸に今何故戀の存在せざるが爲なる乎、否、余には今最愛の妻もあり愛する子供もある也



佐倉宗吾

（六十七） 眞龍齋貞水講演

宗「イヤ六郎兵衛どんの御考へも、私の思ふ所も、少しも異ひはございませぬ、私は先頃より今日は御沙汰があらうか、明日は何とか仰せられるかと、實は每晩ろくに寢もしないで考へて居りますが、今日まで御沙汰のない所を見ると、斯りや何うしても御大老樣と堀田樣の御思召が異うんでございませう、何う成り行く事か實に苦勞でございます」六「イヤ何うも宗吾さん一人に御心配を掛けて、何とも申し譯がございませぬが、何日まで待つと雖も、何の御沙汰もないのに、斯うやつて六人が御世話に成つてるのも、心苦しい譯でございますから、貴下一人だけ殘る事にしては如何でございませう、而して私共勝手な事を云ふやうでございますが、是から五人の者は、伊勢參宮から金比羅樣に御參詣をしたいと思ひます御參詣をして戾つて來る迄には、又何とか御沙汰もございませうから、希か斯う云ふ事にしたいと思ひます、何も御相談でございますが、宗吾さん、貴下が一人とにかく御殘りが願ひたいものでございます、六人の者が斯うやつて、上野の御賄ひを頂いてゐるのは、誠に苦しく思ひますが、如何でございませう」宗「イヤ、そりや宜い御考へでございます、それぢや私が御當寺へ御厄介になつて居りますから、貴下方は伊勢の大神宮樣へ御參詣をして下さいまし、又金比羅樣へも御參詣をして下さいまし、而して私の希うか御樂殿も御願ひ申します 六「ア、宜しうございます 宗「それぢや希か御うして下さい 六「ハイ、是から伊勢太神宮樣から、金比羅樣へ御參詣をして、百姓一同の無事安泰を祈りますから、それでは宗吾さん、後の所は何分御賴み申します」と玆に六人の庄屋が涙ながら[illegible]伊勢太神宮と、四國の金比羅樣へ、參詣に行くと云ふ事を、明珠院へ申上げ、又凌雲院樣にも其事を御屆けなすつて、[illegible]が發れば宜しい成の[illegible]て、是から五人は、心細くも上野を出まして堀田役人の眼に止まらざるやう、夜の明けない內に品川を過ぎました、誠に氣の毒な有樣後に殘りました宗五郎は、今までは話し相手があつたが、是からは話し相手もなくなり餘り退屈だから、中堂の邊から六角堂、兩大師樣と、每日上野三十六坊を、御參詣をして廻つて居ると、或る一日の事、清水の舞臺から、穴の稻荷を過ぎて、恰度黑門の方へ、浮浪離〱に[illegible]行つて來ると、宗五郎は春日山の羽衣を着て居ります、此の春日山の羽衣を着て居る者は、何んな御用だつて、紹取ることが出來ない、宗五は、黑門の邊から、三橋の方を覗いて見ると、女乞食が傍腰の處へ、一人の子供を抱き、膝の上へ座つて居ると、九歲ばかりの男の子が 子「お父つアんが死んで仕舞つて、お母さんが困りますから、一文頂戴、[illegible]さいまし……お父つアんが死んで仕舞つて、お母さんが困りますから、何か御手の中を願ひます」と云つて、往來の人に縋つてゐる、其一文二文の合力を受ける有樣を見まして、宗「ア、可憐さうなものだ、村方の百姓の內でも、隨分困難をして、乞食に成つた者もあるかも知れない、長い間、自家の容子も聞かないが、妻子は何う成り行つた事であらう、身に引受けて江戶へ出て、其甲斐もなく、今日まで斯うして上野の御厄介、ア、可哀さうに」と慈悲ふかき宗五が、乞食の容子を見て居りますと、向うも見たやうだから 宗「ヤレ〱、小僧〱ッ 子「ハイ〱 宗「サア、手の內を遣るぞよ 子「ハイ有難うございます」宗五が澤山鳥目を遣りましたので 子「お母さん、此樣なに旦那樣から頂いたよ」流石小僧も澤山頂いたから母親が「是は〱有難う存じます」と、子供を抱いて、五六間此方へ進んで御辭儀をなしました



京城新報

不換紙幣の發行

●國立銀行の設立

韓國の現狀を詳にするものは何人と雖も、產業の不振と經濟界の沈態とを憂慮せざるものなからむ、此沈衰不振を挽回し將來國運の發展を策するは韓國政府自身の任務なりと雖も、保護指導の任務を有する帝國保護政廳も亦之に對して國運發展の方法を講じ以て指導せざる可らざるは勿論なり、經濟界の沈衰、地方人民の萎靡を救濟するの方法として度支部は各地に金融組合を設置しつゝあるは尊ぶべき事なれども、遺憾ながら規模狹小にして、其恩惠に均霑する區域も從て廣汎ならざるを以て到底全國の金融を圓滑ならしむる能はず、然らば他に何等かの方法を以て發展の方法を講ぜざる可らず、現時の韓國や經濟狀態の沈衰を挽回するの必要あるのみならず、產業發展の爲に起すべきの事業頗る多し、此際講ずべきの要は唯低利の資金を得るの途也、然るに外資の輸入も思はしからず、暗に待受けたる東拓會社も現在の資金僅少にして之等の需用に應ずる能はず同社々債募集の如きも近き將來に於ては望なし、然らば如何に低利の資金を得べき乎、是れ韓國現在の大問題也、余輩は茲に窮策として國立銀行設備の案を提出せんとする者也、其組織方法は株主に土地を提供せしめ政府は之を擔保として不換紙幣の發行を許可するなり、人或は云はん國立銀行制度は米國が南北戰爭の當時採用し其後弊害多くして其整理に手を燒きたるを知らざるか、帝國も亦國立銀行に公債證書を擔保とせしめ紙幣の發行を許し爲に財政上鮮からざる弊害ありしを知らざるかと、然り余輩も亦之を認識す、國立銀行制度の弊害あるを知了す、然れども何れの邦國と雖も過渡の時代に於ては多少の弊害あるを知りつゝも、一の權道として此種の方法を採ることあり、要は唯其利益が弊害を償ふて尚は利する所あるや否やの問題也、余輩は少くも現時の韓國に於ては其害よりも利益の多きを信ずるもの也、當局者は將來に於て兌換制度を採らんとしつゝあるならんか、余輩は韓國の現狀にては正貨準備の如き到底近き將來に於ては覺束なきを思ふ、前途遼遠なる兌換制度を期して現狀の儘に捨置くは決して國運の發展を策する所以に非ず、宜しく過渡時代の要求に應じて權道にも亦依らざる可らず、世界各國の狀態を見るも國運發展の爲には多少の弊害は一方利益の爲に忍で權道を用ひたるの例乏しからず余輩と雖も好で權道を唱道するものならんや、果して國立銀行制度を採るとせば、無論提供擔保の價格に依り金額を制限して不換紙幣の發行を許可し、韓國現時の程度としては一行の資本額五十萬圓を標準とするが適當ならんか、而して其數は僅一道に一行を設置するが至當ならんか、要するに曾て帝國の採用したりし國立銀行制度に倣はゞ可ならん乎

惟ふに之が實行せらるゝに至らば死せるが如き地方の不動產を活かして金融を盛にし以て產業を發達せしめ、新政に反對する地方の豪族も土地の提供により利殖の道を得て自然新政を謳歌するに至らん、亦通貨の膨脹により物價の自然に騰貴すると共に勞銀も從て昇騰し爲に各階級は俄然として好景氣を呈し來る可し、其他間接に好影響を及ぼす所蓋し少なからざるべき乎、之を要するに韓國現時の狀態に於て國立銀行制度を採用し不換紙幣を發行するは將さに機宜を得たるものに非ざる乎、唯之を實行するに政府自ら之に當るか民間に經營せしむるかは攻究すべき問題也、何れにしても當局者は時勢の要求に應じて經濟の發達を計らざる可らず、余輩は此案を茲に提出して當局者及世の識者に考慮を請はんとす

東京電報

▲個人救恤請願

日露戰役に際し被むれる個人損害の救恤請願は是に關する法律發布以前に提出せるものは其年月日を申請書に記入し證據書類と共目錄を添ふるを要す（二十八日夜發）

▲韓國々債償還

明治卅八年韓國政府の發行せる國庫證券二百万圓（第壹銀行引受の分の中本年度償還すべき百萬圓は來月壹日東京に於て度支部出張官吏と第壹銀行との間に現金の授受を爲し第壹銀行は六月壹日より日韓兩國に於ける本支店出張所に於て債劵引換へに現金を交附する事に決定したり（廿九日發）

外報一束

●獨帝と三帝會見

獨逸皇帝は英國皇帝をコルフへ招待したり而して獨帝は五月十一日コルフを出發しヴエニスにて伊國皇帝と會見せられ更に伯林への歸途墺國皇帝を訪問せらるべし

●海陸軍の協力

先きに出航したる土耳其艦隊はボスフオラス海峽に歸着しイルヂッズ宮に對して投錨し同宮附近に集中せるサロニカ軍隊（青年派に屬する攻圍軍）と共同動作を執らんとしつゝあり

●葡國の大震災

去廿二日夜葡萄牙に激震あり豫想以上の慘狀を呈したるものゝ如く中心は首府リスボンを距る十八哩のホナヴアンテにして家屋倒潰のため多數の人々死亡せりと

●獨逸歳入不足

千九百八年度獨逸帝國歳入不足額は諸大臣の豫算せる所より非常に莫大なり重なる財源よりの收入は皆其豫算よりも低額なり

●ル氏阿弗利加着

ルーズヴェルト氏はカバキロに到着し知事ジャクソン氏は非常なる滿足を以てこれを迎へたり

●摩洛哥の叛亂

摩洛哥國土族は公然國王ムライハフキッドに對し叛旗を飜へしたりと

雜報

●漁政課の新設

漁政課は愈々昨二十九日の官報にて發表せられしが今其の內容を見るに從來の規程は水產課及び調查課なりしを一般改正の上調查課を廢止し漁政課を新設することになりたるものにて漁政課は主として漁業施行に關する事務を掌り水產課は水產業の改良及び獎勵に關する事務を掌るべきものにて其の兩課長には庵原氏之れに任ぜらるる筈なり

●再び暴徒鎭壓會議

去る二十四日軍司令部に於て暴徒鎭壓會議を開催せしことは既報の如くなるが之れが鎭壓方法に就ては事秘密に屬するを以て茲に之れを述ぶる能はざれ共一方鎭壓を爲すと同時に軍隊及警察官は協力して旅行者の保護をも爲す筈に決定したりといふ

●國庫證券の所有

韓國々庫證券百萬圓の償却に就き之れが當撰番號の發表は一兩日の官報及新聞紙にて廣告せらるゝことは既に報導せしが韓國に在る同證券は第一銀行に三十萬圓善隣商業學校に三十万圓あり其の六割は右二者の有する所なれば個人の所有主は左程多からざるべしといふ

●統監は留任か

伊藤統監の辭任說に就て政友會の一領袖は曰く韓國の施政も着々整頓し統監常任の必要もなく又長き邊に於かせられても伊藤公の老体を思召され屢々有難き御諚を賜はり各元老よりも勸告あり統監自身も韓國の實況に徵し常任するの要なきを認めたれば常務は曾禰副統監に任せ一年一回位好期節に二個月內外滯在の豫定にて渡韓する事に略決定したるが如し統監更迭說は此の邊より流布したるものならんと（大朝子は報ず）

●副統監の慶州滯在

曾禰副統監は天候不穩の爲め昨二十九日慶州に滯在する旨其筋に電報ありたり

●大臣會議の開會

李首相以下各部大臣は一昨日午前十一時より各部の政務に關し內閣會議を開けり

●免許漁場の調査

農商工部にては免許漁業の願書も愈々輻輳し來りたるに就ては之れが實地を調查し許否の決定を爲すべき筈にて慶北各外串以北の東海岸を一區と爲し全羅南北道と其の西北とを分て各一區とし合計三區の分界にて實地調查を爲すべく局員を派遣する筈なるが一區に付技師、技手、主事等各四人づゝにて來月五六日頃何れも出張する筈なりと云ふ

●驛屯土引繼實行期

驛屯土の引繼に對して凡て東拓會社にては交涉終りたる事は既報の如くなるが度支部にては來月三日より開かるべき財務監督局長會議に於て打合せを爲し其の方針を決定する筈なれば愈々實地の引繼は同會議終了の後なりといふ

●安奉線工事を急ぐ

安奉線問題に付て徐總督は既に北京條約に於て決定し居る行政權問題等を持ち出し故らに交涉を遲延せしむるの行爲ありたるより我當局者は世界の交通に關する該工事の故條約の解釋は別問題とし可成急速に運び度き旨要求したるも未だ何等の回答なき由なるが滿鐵調查役佐藤少佐は當局者の旨を含み直に沿線の土地買收に着手する爲め此程奉天に向へりと

●開城人參の成績

度支部蔘政課の報ずる處に依れば人蔘の耕作は近年余程の好成績を見るに至りし由にて昨年度の作付反別は十四万一千間（間は四尺と八尺廣さなり）なりしが本年は十九萬七千間、差引五萬六千間の增加を示すに至りし由にて此原因は耕作人が精勵と前年度に於て種蔘圃の健全なる發育の爲め苗の供給潤澤なるに依れるものにて二三年後には大いに見るべきものあるに至るならんと云ふ

●內部法令審查會

一昨日午後一時より岡次官列席の上法令審查會を開きたり

●警視廳職員義捐金

警視廳職員一同は咸南文川郡に於ける飢饉救恤の爲め金三十八圓七十二錢を義捐せり

●吉原副總裁の行程

吉原東拓副總裁は韓理事、加賀山、米山兩調查役外一名を隨へ群山地方へ出張すべき旨は所報の如くなるが今其行程を聞くに三十日下仁の上仁川を發し五月一日群山着、二日群山發全州着、三日同地滯在、四日全州發江景着、五日同地滯在、六日江景發公州着、七日同池滯在、八日公州發鳥致院を經て歸社の豫定なりと

●安東調查役の視察

東拓調查役安東義喬氏は來月二日より向ふ十日間の豫定にて馬山、晉州、泗川、宜寧、昌江、松津、三浪津及其附近を視察すべしと

●各銀行營業現況

今本月十五日現在京城各銀行の營業狀態を見るに左の如し（單位千圓）

銀行	△預金の部 定期	當座	特別	諸預金	△貸出の部 貸附金	當座貸越金	割引手形
第一	二、八六九	八〇二	八九三	三、七三六	二七一	二八二	五四七
百三十	四六	三六九	二〇七	三九	四九六	九三	五〇六
十八銀行	七七	三二七	七七	三	九三	八二	二四〇
大韓天一	五一	一二六	一五	二	二七	三一	二九〇
漢城	一〇三	九六	五六	一三	五五	九	二九〇
韓一	一五八	一一〇	三〇	六	五〇	七	二九九
漢湖	五三	一九四	五三	八	二五	…	一三三
合計	三、三五七	二、一一八	一、三三一	三、八四六	一、三六一	五一六	二、三三一

●學務主事の着任

第二回に任命さるべき學務擔任主事にして內地より任官の後着任すべき者は此程夫れ〳〵諸般の手續を了したる由なれば不日着任すべしといふ

●學務主事の會議

學務主事會議は二十七日より引續き學部に於て開會、諸問事項及び重要事項に就き會議中なるが同會議は昨日を以て終了せし筈

●大邱昨今の市況

今春は一般に不人氣にて雜貨の賣行も捗々しからず昨春に比較すれば甚だしくして比較にならざる由

●通話事務の開始

五月一日より咸北會寧郵便所及び同道富寧茂山兩郵便電信取扱所に於て通話事務を開始する筈にて通話時の通話料は會寧富寧間、會寧茂山間及富寧茂山間各三十錢にて又壹回の電話呼出料は各十五錢なりといふ

●募集巡查の着任

熊本廣島二縣に於て募集したる內部警務局巡查五十名は警務局勤務鎌田警部引率の下に來月四五日頃着任の上十日頃巡查練習所に入所すべしと

寄書

日韓關係の根本義

悠然閣主人

統監公爵閣下の日韓は同一家なりとの說を聞き所感を草して貴社に投ず時勢は人を造る無祿の處士一毛の筆を揮ひ一世を指導せんとするも亦時勢なり、せられ紙上の餘白を割かるゝあらば幸甚

義を說きて節に當らば以て治まらざるの人心を統ふるを得べく、義を說きて節に當らざれば以て離れざるの人心を散せしむ、節に當らざれば說く所愈大にして散する所愈大なるべく、節に當らば說く所愈大にして統ふる所愈大なるべし。

說きて節に當らんとすれば說かんとする所愈大にして說くの方愈簡ならざるべからず說くの方愈簡ならば化する所愈大なるべし、世の大義を說きて人心の嚮背を定めんとするもの亦大に心せざるべからず、

日韓の關係其義の大なるものなり、其根本義に至りては義の大の大なるものなり、世の日韓關係の義を說きて**兄弟**の國と云ふ、兄弟は一轉して直に**二家**となるの義を含む、說きて當らざるものなり、又說きて**同一家**の國と云ふ、一家は內兄弟姉妹あることさあるの義を有す、盡くせるか如くにして實は盡くさゞるものなり、貴ある者は常に言ふに盡くさゞるを務となすべし、貴なきの處士敢て百尺竿頭更に一歩を進めて之を說かば即ち如何、曰く、**日韓は夫婦の國**なり、說て夫婦の國と云ふ以て日韓關係の根本に透徹するを得べけんか、何を以てか之を謂ふ、曰く、日は韓を愛すべく韓は日を慕ふべし、日韓は**借老同穴**なるべく二家となるを許さず、一家の道は夫之を唱へて婦之に隨ふに在り內治に外交に日の唱導する所韓之に隨從せざるべからず、而かも夫婦の間內外本支其主とする所を異にす、日は外と本とを主とし韓は內と支とを主とす、日は外資財を集め韓は內產金を積む、觀し來れば日韓は夫婦の國と云ふ一として當らざるの節なきにあらずや、而かも又世上の事大には自から大の活計あらば小には自から小の生涯あり、夫婦と云ふ之を大なる邦國活計の上に說きて當らざるなければ自ら個人の生涯を指導し日韓男女同一体となるの大勢を助長するに於て必ずしも寸果なしとせざるべし、日韓は夫婦の國と云ふ、必ずや簡にして盡くせるものあるべく、從て亦人心を化する所必ずしも少なからざるべし、

菊を東籬に植へねども悠然として南山を觀る、千古の松の翠の色は自から日韓情節の長へに變らさるを示して餘あるにあらずや大方の君子、一枚の**舌の頭**の使方は能く**乾坤の差**を生ず、爾今以後希くは口**兄弟**を說くを止めよ、至囑至囑

●京城中學校入學式

京城中學校にては既報の如く本日午前十時より同校堂に於て入學式を擧行す

●南支店長の送迎會

東亞煙草株式會社にては京城支店長として佐々木唯一氏就任し長春支店長には從來京城支店長なりし赤間嘉之吉氏任せられたるに付ては今三十日午後六時三十分より花月樓に送迎會を開く筈にて發起人には度支部藤原書記官菅原百三十銀行總支配人熊谷氏岩及清水十八銀行支配人にて參會希望者は右發起人へ申込むべしといふ

●中村局長の出張

農商工部農務局長中村彥氏は韓國中央農會平壤支會第一回總會に臨席の爲め今三十日平壤に出張する筈なるが歸路開城の模範果園を視察し來月四日歸任の筈なり

●土木主事の懇親會

今回任命の土木主事及內部土木局員一同は二十八日夜井門樓に於て懇親會を開きたりと

●官吏の叙勲

四月二十二日付を以て左の如く叙勲ありたり

特賜太極章　大藏次官勳一等　若槻禮次郎
特叙勲一等賜八卦章　大藏次官　水町袈裟六
特叙勲二等賜太極章（各通）　大藏省主計局長　松本圭三郎
　大藏省理財局長　勝田主計
　大藏省書記官　市來乙彥
特叙勲二等賜八卦章　大藏省書記官勳四等　森賢吾
特陞勲三等賜太極章　統監府書記官伯爵　兒玉秀雄
特叙勲三等賜太極章　大藏省書記官　長島隆二
　同　田昌
特叙勲四等賜八卦章　理事廳副理事官　近藤左右一
特叙勲五等賜太極章　開城日語學校々長　荒波平治郎
特叙勲六等賜太極章　陸軍大佐勳二等　岩谷龍太郎
特賜太極章

公私人

▲飯田章（京畿警察部長）來京中の處二十八日歸任す

▲澁谷季五郎（平壤民團助役）平壤より來京二十八日龍山に向ふ

▲橋爪象太郎（關東都督府民政局事務官）二十八日入京天眞樓

近事片々

▲見渡 せば野の末山の端迄花なき里ぞなし漢城の春色酣にして入心亦た至極長閑也

▲韓內 閣も亦閑散今日も御酒宴明日も御酒宴異に太平の御代歡樂極て哀情來らん乎

▲保證 政廳首腦空虛所謂鬼の居ぬ間洗濯でもあるまい閑散歡樂で國政が擧らば結構

▲執監 更迭說打消され留任說が事實らしく報せらる而も乃公に辭任の意なき爲也と

▲留任 するも專心其職に盡すに非ず年一度好季節の折來韓し萬事は副統監に任すと

▲御當 人には都合宜き話なれ共斯くては帝國の對韓經營を如何せむ余り馬鹿々々し

▲帝國 の對韓經營が常に振はざるは政府が斯る生緩き事のみする故也性根を入替よ

▲東京 每日主催の沙博遊覽隊五百名を募るに際し外務省は之に干涉して減員を命ず

▲五百 人の多數にては移民混入の恐ありて米國の感情を害せん故に二百人にせよと

▲二百 人にては單獨旅費以上を要するに依り每日社は遂に其計畫を中止するに至る

▲日本 の外務省程融通の利かぬ腎の穴の狹き者はなし斯くては日本萎縮の機關のみ

▲斯る 偏狹極る外交術を以て到底國光の發揚國民の膨脹は望む可らず憤慨千萬

▲軍隊 に依り國威を宣揚すると外交家が徒より之を打毀すの惡評も强ち無理ならず

▲觀光 團のヨボ連中には政治的野心ある者少しとせず恐く日本に隨喜せずと噂あり

▲歸來 渠等は政治運動を開始すべしと語る者ありと實ならば眞に度し難きヨボ共也

▲伊公 が如何に日本を見て排日思想を起すなど言ふも口だけで更に効力なからむ

▲一行 中の頭領分閔泳韶や李重夏等素と是政權宗の徒觀光位では迚も改宗覺束なし

▲大隈 伯曰く今日の急務は政策一變物價の下落を計り生產費を廉價にする事なりと

▲而し て貿易上優越の權を握り法律及社會の制裁を有力にせば帝國の前途は樂觀也

▲隈伯 は帝國現時經濟界の破綻は向上進步を意味せりと極て樂觀す或は進步の道程

▲高等 商業生徒は最早官憲に訴るも益なきを以て社會の同情に訴る大運動を始ると

▲元良 福來等の博士連火渡り研究にマンマと行者輩に胡麻化さる學者は迂濶也

雙影(三)

南船北馬樓主人

第一章 誤解(三)

君子は痛々しい脚を細の上に投げ出しながら、默せる男の顔を熟々と眺めて、

「山田さん、今日は、奈何したんですよ。」

「奈何したとは。」

「だッて大變に怒つてらつしやるからさ……。」

「夫れが奈何したのだ。」

「奈何て事もないけれど、貴郎、先刻のやうな亂暴をするんですもの、酷いわ。」

「酷い。フム、酷いとは熊いたね、お前でも酷いと云ふ事を知つてるのかい……。」

と、憎くさげに冷笑したが、恍惚として瞬もせず、見上げて居る、美しい郷を見ると、流石に山田も氣遅れがして、遥ろに迫るいぢらしさに思はず溜息のホッと洩るゝをグッと呑んで、思ひ決つて、

「俺がお前を蹴つたのが酷いと言つて怨む程なら、散々に馬鹿にされた、此の、此の山田は何うするのだい、うれこそ、お前を蹴つて、踏んで、踏み殺したつて、俺の此の怨みは霽れないのだよ。それを熟と堪へて居る俺の心の苦しさはどんなだと思ふ、奈何だッたら考へても見るが可い。」

抑はれぬ憤怒の呼吸は漸く言葉に亂れて來るのを、強いて、穏やかに、頭を押へて、

「止さう〳〵、自分さへ好ければ他は如何なろうとも介はないんだ……今が今まで、お前の玩弄物になつてゐた俺だ、天下の大馬鹿者ぢや。」

君子は、身悶いして天井を仰いだ、

「まあ、山田さん、仕うしたのですよ、妾には、些とも、貴郎の仰やることが解らないのよ、うして妾が貴郎を玩弄物にするやうな妾でもないんですよ。」

「聞きたくないッ。玩弄物にせねのが奈何して俺を欺いた、仕うして俺を苦しめたのだ。」

猛然として起ち上がると、君子は口惜しさうに縋りついて、

「あれ、山田さん、ま、……待つて下さいよ、貴郎は、貴郎は考へ違ひをしてるんだから。」

「考へ違ひ。」と憤として「馬鹿な、何が考へ違ひなんだ。」と威猛高になる。

「だからさ、妾、貴郎が那麼に疑ふんだッたら、妾は怎麼事をしても、證據を見せるわ。」

「ねゝ、行らん事を……。」

山田は煩さげに眼をつぶつた。

折柄、裏座敷から洩れて來る新内の美音。

三下り「好いた男にわしや命でも 何の惜しかろ露の身の 消ゆれば怨みもなきものを……。」

君子はゾッとして身慄いした。

●怪き朝鮮美人 東京麹町區平河町三丁目十七番地旅人宿金生館へ廿一日より泊み込みたる韓國美人の父子あり父は吳時善と云ひ夙に家庭教育に注意し私立學校を京城に設立し殊に日本語の習學を奬勵せしを以て我家三人の兄弟は貴國官邸の試驗に合格し一は財務主事一は郡主事一は警部に任官し自分は嘗て學べる背嚢を揮毫して資金を得故國に還りて女學校設立の資に充てんとすといひ此の美人は吳小坡(二十)と稱し鈴木鶴子と云ふに日本語を學び揚石然に就いて書を學び父なる時善に勸めて三月中渡日し廣島大坂に揮毫會を開きしも思はしからず同月廿四日入京せしものなるが最初芝區愛宕町二丁目の月見館に泊り兩三日にて同町一丁目の對陽館に移り更に又た右の金生館に轉せしは許しきのみか同女が昨今姙娠の身なりといひ母は廣島生れの賀屋某とて先頃まで神田區淡路町の關根屋方に泊り居たりといひ殆ど厘毛の蓄財なく僅かに揮毫し居れるなど女學校設立とは受取り難き節あり

●キ印の暴行 仁川花町派出所へ昨晩三時頃一人の男慌たゞしく驅け込み來り私は花町三丁目安藤彦吉(六十)と云ふものなるが只今發狂せる實弟が狂ひ出し大刀を以て此の通りに斬り付けられましたと後頭部より迸る鮮血を押へて訴へたれば警官は直に出張したるに狂人は大刀を振り翳して往來の人々を威嚇しつゝありしにぞ巡査は隙を窺ひ引捕へんとしたるに狂人は何んと思ひけん突然公園地方面に向け韋駄天の如く走り出したれば巡査は追跡し海岸町埋立地に於て漸く取押へ午後の監視方を嚴達して引渡したりと

●猫島の夜嵐 仁川警察署にては一昨夜五名を引致し拘留に處したり一昨夜は猫島新地の料理店金築樓藤川いさ(三十)今川すゞ(三十七)瓢亭秀等が各自家に於て密淫賣の最中を取押へられ何れも拘留五日に處せられたり

●春季大掃除 南部署管内にては來る五月七日より同十七日迄春季清潔法を施行する筈なりと

●仁川韓妓の檢梅 仁川朝鮮敷島の韓妓檢梅は一昨日執行せられたるが受檢者は四十九名にて不參者四名ありたるのみにて有毒者は一人もなかりし

●脫監囚の公判 仁川港にて去月八日捕縛せられたる釜山監獄脫獄囚徒岸本松藏の公判は本日理事廳内にて開かるゝ筈

●天然痘新患者 仁川松林石灰製造所居住山口いふは一昨日天然痘にて死去す

●巴登司の開業 壽町一丁目牧野旅館前に開業せる巴登司は原料がタップリなのと板場の腕が東京仕込みなので評判非常に好く開業以來毎日賑々しく繁昌せる由なるが殊に御近所の見番の藝妓などは他で此位の巴登司は食べられないと大喜びに喜び居るとか一度は試しに食べて見るもよかるべし

▲拘引代議士の差入物 日糖事件で東京監獄に入つて居る代議士は政友會所屬の方々ばかりで無く大同派からも二名だけ交際に顔を出したが昨今は又局面一轉して進歩黨からも四五名馳せ參じた、若し此の連中を雜居房の中へでも收容しやうものなら夫れこそ大變朝から晩まで議論に花が咲いて日比谷の議會以上の盛觀を極める事であらうに惜いかな何れも個々別々に收檻され窓外の櫻散り行く春の夕を淋しう過して居られる、中にも政友會に屬する人々へは政友會員の同情一方ならず醵金して差入物を送るやら磯部四郎氏先に立つて典獄と會見し萬事の待遇法を寛大にして下さいと交渉するやら並大抵の事では無い、近くは差入店大野屋の二階に事務所を設け奥野、佐藤、松浦、横井、栗原、荻野、森本、秋山、小澤等東京居住者九名の宅から毎日交代に家族二名ずつ出勤して差入物の指揮をするなどこんな事は監獄の差入物屋始つて以來の珍事であるとさ

●新町だより 新町遊廓清月樓にては一昨日横濱より四名の新妓を輸入し早速昨日より張店の列に加へたるが是等の美形中横濱市神奈川町栗田かつ(二十)は源氏名を彌生と神奈川縣都筑郡新田村稻元よし(十九)は牡丹と横濱市若葉町一丁目山口きみ(十九)は若松と同縣中郡平塚町字平塚杉山つる(二三)は花扇と名乘り身の代金は三年が二百四十圓以上三百三十圓迄なりテモ安い事▲茨城縣那珂郡國田村大字田谷宮田くに(十九)は南山樓より住榮と名乘り其筋へ鑑札下付を願出でしにくにの父は横濱にて某官署の官吏を務め居り本人も高等小學と補習科の學科を經へたる程なるを以て何か特別の事情あるに非らざれば許し難しとて目下原籍に照會中なりと▲一昨夜同廓の登樓客は百人にして費消高五百三十四圓二十三錢此内第一樓本店の十三人と京城樓の九十四圓十八錢が最高なり(郭雀)

▲坂谷男の母堂▼ 阪谷芳郎男の母堂は當年七十七歳の高齢に達したので去る廿四日小石川區原町の同邸に於て兒玉伯夫人、京極子爵夫人、澁澤男夫人、穗積八束氏夫人、穗積陳重氏夫人、馬越恭平氏夫人其他の夫人令嬢等百五十餘名を招き内祝宴を開き杵屋伊十郎連の長唄等の餘興あり却々盛會で有た、同母堂は名を京子と云ひ備中七日市の人で男爵の父故阪谷希八郎氏に嫁いだ希八郎氏は號を朗廬と云ひ儒學に長じ藩の學校弘城館の師範に擧げられた人で京子も好んで和書を讀み歴史や經書に精しく當時の婦人にしては珍らしい學問を積んだ然れど少しも驕れる色なく毎日手づから炊事をなし弟子達の教育を助けた然るに偶ま飢饉で五穀登らぬ藩中儉約を行ふ事となつたので朗廬先生また寄食生を減らさうとした京子は大に其の可からぬ事を諫め自から衣服や簪や笄などを賣り又下男を廢し手づから米を搗き書生を養ふた後ち良人に從ふて廣島に行き東京に來り七十七歳の今日まで志操堅固である京子は質朴で磊落で男まさりの氣象である上今でも五斗俵ぐらい提げる力量があるとは驚いたものである

演藝界

▲龍山座 竹本一昇一座の大坂淨瑠璃は非常の好人氣なるが今夜の語物左の如し 秀衡四(定)三勝(小富士)朝顔宿屋(圓朝)伊勢音頭十人斬(輝美)忠臣藏九段(梶登)お俊傳兵衛堀川の段(一昇)

▲歌舞伎座 田宮、松村等の新派劇今日の替りは「爆烈彈」にして配役左の如し 春元子爵(松村)金太の子分三次(小柳)巡査小川一郎(大山)金之助妹たね(藤原)看守水上(東郷)銚の金太(篠田)家令香川澄三(阿部)吾守小池新平(高山)愛妾君子(小堀)刑事山川金之助(田宮)

▲永樂亭 岡本美根松一座の源氏節今夜の語り者左の如し 石川五右衛門(美根子)八百屋お七(美根鶴)小栗判官(美根鈴)石井常右衛門(美根松)石童丸(少女美根由)

平民文庫

捏造中傷無用のこと 小便も亦御斷り申候

▲由來恐いものは地震、雷、火事、親父と能く皆さんが云はれるが私は不景氣程恐いものは無いと思ひます(本町の商人)▲電車内や雜踏の内で若い女に足を踏まれたり又は突き當られたりして嬉し相に只笑つて居る人があるが全体其の時の感想は何んなのでせう御高教を願ふ(不幸生)▲成功に憧れて重き責任と義務を忘れ家を捨てゝ當地に來りてより茲に一年只聞けば家郷吾が母は憂の餘り病床に呻吟せりと嗚呼野心を捨てゝ母に事へんか母を捨てゝ功名に馳らんか彼れを思ひ是を思ひて厭世悲觀の念に堪ゑず嗚呼予は何處に何によりて吾が進退を決せんか(總角生)▲讀者諸君、世の中には斯う云ふ馬鹿ものだ母を捨てゝ功名に狒らんかとは何んと云ふ譫言だ此の樣な奴が動ともすれば偵探や消探やになるのだ、何にを取捨に迷ふことがあるか理義は明晰である、何にを煩悶することがある馬鹿も此所迄行けばモウ行き止まりだ此の位の取捨に迷ふ樣な頭腦で何んの世に仕出來すことが出來るものか口惜しければ怒つて見ろ(小僧)▲本町二丁目の文林堂の店員は此の頃大車輪で客扱ひの叮寧なる驚く計りだ(一見生)▲僕は四五日以前百三十銀行へ預金引出しに行つたら小一時間待たせられた改良して欲しい其處へ行くと第一銀行は敏速なものである(困太)▲國開寺の住僧は度々の攻擊にも懲りた樣子が見えぬのみか此の頃は又銃獵を始め出した五戒を保つ身でありながら何んと云ふことだ夫れのみか本堂で獲物の鳥を食して居る何んと云ふ不所存だ反省する所なくば益々攻擊するぞ(旭町みの字)▲

四月 長唄嗜好會

本月例會は會場なる巴城館修繕中に付き來月上旬迄延期候條此段會員諸君に謹告候也

韓語獨習は非常に歡迎して居りますが最初は何月何日頃より御掲載に相成りしか紙上にて承知致したい(新來生)▲先月廿三日です、何ほ投書は歡迎致します(係)▲敷學者の出題に對する小僧君の答案は少しく誤解かと思ふ何どなれば女に男を乘れば五(兒)だが題は男に女を乘けたのだから此は大阪に名高き茶〇山だらう(皮肉生)▲皮肉生君のも一理ありと云ふべしであるが結果は五である決して誤まつては居らぬ必算だ、ドまあ威張つて置く(小僧)▲給仕君は一讀者に申譯もないと云ひながら申譯けをして居るのは統監政治質問に對する答辯演說を聞く樣だ(皮肉生)▲イヤハヤ(給仕)▲苦勢人君の九州方言中兄の事をれバさんとありしが彼れはオバーさんでオバと云つては通じませんバを少し引きますのです(愛讀者)

天氣豫報(自二十日午後六時 至一日午後六時)

西の風晴

廿九日 最高温度 六三、〇 最低温度 五四、七 (華氏)

大韓國國庫證券一部償還當籤廣告

光武九年(明治三十八年)發行國庫證券來六月一日一部償還ニ付抽籤ノ結果當籤セシ證券ノ種類記番號及金額左ノ如シ

五百圓券 ロ號 千八百枚 此金額九十萬圓

自	至
自第一一番	至第二〇番
自第二一一番	至第二二〇番
自第三五一番	至第三七〇番
自第四八一番	至第五〇〇番
自第六二一番	至第六三〇番
自第七四一番	至第七八〇番
自第九一一番	至第九三〇番
自第一〇三一番	至第一〇四〇番
自第一一三一番	至第一一四〇番
自第一三五一番	至第一三七〇番
自第一四七一番	至第一四八〇番
自第一六六一番	至第一六七〇番
自第一八一一番	至第一八三〇番
自第二〇一一番	至第二〇二〇番
自第二一四一番	至第二一五〇番
自第二二九一番	至第二三〇〇番
自第二四六一番	至第二四八〇番
自第二六三一番	至第二六五〇番
自第二七五一番	至第二七八〇番
自第二九四一番	至第二九五〇番
自第三〇三一番	至第三〇五〇番
自第三一六一番	至第三一七〇番
自第三三五一番	至第三三六〇番
自第三五二一番	至第三五三〇番
自第四一番	至第五〇番
自第二三一番	至第二六〇番
自第三八一番	至第三九〇番
自第五二一番	至第五四〇番
自第六四一番	至第六五〇番
自第七九一番	至第八〇〇番
自第九五一番	至第九六〇番
自第一〇五一番	至第一〇七〇番
自第一一五一番	至第一一六〇番
自第一三八一番	至第一四〇〇番
自第一五三一番	至第一五四〇番
自第一六八一番	至第一七一〇番
自第一八四一番	至第一八五〇番
自第二〇三一番	至第二〇四〇番
自第二一六一番	至第二二〇〇番
自第二三二一番	至第二三三〇番
自第二四九一番	至第二五〇〇番
自第二六七一番	至第二六八〇番
自第二八三一番	至第二八四〇番
自第二九六一番	至第二九七〇番
自第三〇六一番	至第三〇九〇番
自第三一八一番	至第三二〇〇番
自第三三七一番	至第三四三〇番
自第三五四一番	至第三五七〇番
自第一三一番	至第一六〇番
自第二七一番	至第二九〇番
自第四〇一番	至第四二〇番
自第五五一番	至第五六〇番
自第六九一番	至第七〇〇番
自第八一一番	至第八三〇番
自第九七一番	至第九八〇番
自第一〇八一番	至第一〇九〇番
自第一一八一番	至第一二一〇番
自第一四三一番	至第一四四〇番
自第一五五一番	至第一五八〇番
自第一七四一番	至第一七五〇番
自第一八七一番	至第一九四〇番
自第二〇六一番	至第二〇七〇番
自第二二一一番	至第二二二〇番
自第二三八一番	至第二四〇〇番
自第二五三一番	至第二五四〇番
自第二六九一番	至第二七〇〇番
自第二八六一番	至第二八七〇番
自第二九八一番	至第二九九〇番
自第三一〇一番	至第三一一〇番
自第三二一一番	至第三二二〇番
自第三四四一番	至第三四八〇番
自第一八一番	至第二〇〇番
自第三二一番	至第三四〇番
自第四四一番	至第四六〇番
自第五九一番	至第六一〇番
自第七二一番	至第七三〇番
自第八五一番	至第八六〇番
自第一〇〇一番	至第一〇一〇番
自第一一一一番	至第一一二〇番
自第一二三一番	至第一三二〇番
自第一四五一番	至第一四六〇番
自第一六一一番	至第一六三〇番
自第一七六一番	至第一八〇〇番
自第一九五一番	至第二〇〇〇番
自第二〇九一番	至第二一二〇番
自第二三四一番	至第二三六〇番
自第二四一一番	至第二四五〇番
自第二五九一番	至第二六二〇番
自第二七三一番	至第二七四〇番
自第二八八一番	至第二九一〇番
自第三〇一一番	至第三〇二〇番
自第三一二一番	至第三一四〇番
自第三二五一番	至第三二八〇番
自第三四九一番	至第三五一〇番

百圓券 ロ號 千枚 此金額拾萬圓

自	至
自第一番	至第二〇番
自第二〇一番	至第二二〇番
自第三六一番	至第四〇〇番
自第六八一番	至第七〇〇番
自第九四一番	至第九六〇番
自第一三四一番	至第一四〇〇番
自第一八〇一番	至第一八二〇番
自第四一番	至第六〇番
自第二四一番	至第二六〇番
自第四二一番	至第四六〇番
自第七二一番	至第七六〇番
自第一〇二一番	至第一〇四〇番
自第一四八一番	至第一五〇〇番
自第一八六一番	至第一九〇〇番
自第八一番	至第一二〇番
自第二八一番	至第三〇〇番
自第五〇一番	至第五六〇番
自第八〇一番	至第八二〇番
自第一一〇一番	至第一一二〇番
自第一五二一番	至第一六〇〇番
自第一九六一番	至第一九八〇番
自第一四一番	至第一八〇番
自第三二一番	至第三四〇番
自第六〇一番	至第六二〇番
自第八八一番	至第九〇〇番
自第一一六一番	至第一二六〇番
自第一六四一番	至第一七八〇番

右ハ左記取扱銀行本支店出張所及代理店ニ於テ六月一日ヨリ證券引換ニ支拂フヘシ

隆熙三年四月三十日
明治四十二年四月三十日

大韓國度支部

支拂取扱銀行
株式會社韓國銀行
株式會社日本興業銀行

東京電報 ●内親王殿下御成婚

▲無料紹介欄▼

人事部

清語通譯希望 當初給料望まず 氏名在社(二二一)

一年齡二十歳身体强壯高等小學校卒業家内の少き内に於て餘暇裁縫教授を受くべき家に下女奉公を望む 旭町一の三二九 まちだ(二二三)

被雇希望 甲種商業學校出身一年志願兵現役終了給料不望個人商店を望む身元確實 姓名在社(二二二)

買除事業を求む年廿三身体頑强壯軍隊出射擊術に通ず報酬を不望(衣食に差支へなき限り) 氏名在社(二二四)

看護婦募集す志望の方は至急申込あれ 明治町惠愛看護婦會

年廿才五突ボーイに雇はれたし持點數百二十以上龍山大島町新玉軒にて津田(二二七)

看護婦三名入用 南山町二 松岡醫院

給仕に雇はれたし 氏名在社(二二八)

多少法律事務に心得ある事務員一人雇ひ入れたし希望者は午前九時前御越の事 明治町二の七五岩田辨護士(二二三)

下女入用年齡不問 給金働き次第 氏名在社(二二二)

弓削竹二郎君に告ぐ長谷川町濱田屋洋服店へ履歴書提出あれ (係)

雇われたし 家族少なき家を望む十九女 (氏名在社)

十六七の**職弟子入用**但し當地に確實なる保證人有者 明治町一丁目 衛生床(二二五)

藥局生に雇はれたし内地にて多年經驗あり醫院若くは病院を望む身元確實保證人有り 氏名在社(二二四)

年十七高等小學卒業商店又は役所の給仕に被雇たし 氏名在社(二二八)

年廿五体强壯簿記精通會社商店へ雇はれたし確實保證人あり給料多額を望まず 氏名在社(二四〇)

中等教育有り七八年判任文官奉職何れにても雇はれたし給料望まず確實保證人あり 氏名在社(二三九)

物件部

賣家大和町三十坪百餘坪の建物あり官吏向に適し風景最もよし望の方は御來談あれ 社内 矢島

貸間旭町一丁目至極便利の場所電話附(又は賄附にても)にて二間貸したし 氏名在社(二三五)

雉子雄日本畫尾中斷し從來使用中の者盜難にかゝれり心當り御報の者へは謝禮 龍山鐵道官舍八十八號前 丸山(二三二)

衆樣器物を上手に修繕する家應御承知の方は本欄迄御通知被下度し姓名在社(二三七)

貸家若草町一溫突一間疊敷二間日本流押込二外に炊事場玄關井戸付家賃三三五〇 若草町一の一二九矢島(二四一)

貸家若草町一溫突二間疊敷二間日本流押込付外に炊事場玄關井戸付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢嶋(二四二)

貸家若草町一溫突三間半疊敷一間炊事場押込付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢島(二四三)

廣告

京城南大門通三丁目 起業會社筋向

高等待合 紅葉

設備の不行届と衣室の満洒ならざるは場所の適當なると御愛顧とを以て償ひ得て餘りありと存候

無烟煉炭

●特色● 火付善く火力耐久價格低廉

●用途● 瀛鑵、暖爐、竈用に適す

●周防德山海軍省煉炭所東隣

谷口無煙煉炭工場

京城特約店 京城清國領事館通 電話六〇三番 巴商會

韓國一手販賣 京城本町二丁目

東京火災運送海上保險株式會社

明治廿年七月創立 資本金一千萬圓

京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九

事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

東山の手柳町 龍山 萬長旅館

電話四〇〇番

開業御披露

巴壽し並に折詰御好次第

京城壽町一丁目

巴すし

(電話一〇七番)

電話開通 九百十九番

キツト深ゴム 八圓

ボックス深ゴム 七圓五十錢

牛一枚皮 ボツクス深ゴム 五圓五十錢

京城本町一丁目 富田製靴本店 電話九百十九番

同 本町六丁目 同第一支店

同 南大門外 同第二支店

地方よりの御注文は御一報次第代金引替にて郵送致し若し御足に合さる節は何時にても御取替申すべく候

新荷着廣告

歐州各國帝室御用品品質優等、意匠艶麗、

G.D.印トルコ金口煙草(百本入 十本入)

右今般多數入荷致候に付精々廉價にて奉仕致候間多少に不拘御用命願上候

外各種 百本入、二十本入、十本入とも

追て見本品進呈、價格表は御申越次第御送附可申上候

直輸入元 仁川本町一丁目 トルコ煙草商會 電話(七一五番)

待合 醉月

京城旭町二丁目 右二階屋 城丁横目

●賣家●

龍山旭橋通り

一、瓦二階及平屋 取まぜ三十三坪

間數十四造作付

外に空地あり

但旅館用道具共一切御相談に應ず右賣却す望の方は御來談被下度候

龍山丸万旅館

開業廣告

今般左記の所に於て左の業務を開始し懇切且つ迅速を旨とし事務取扱可致候條御用命を崇り伏て奉懇願候敬白

一、登記及諸願屆及裁判所提出書類代書

一、定款規約の起案

一、債權取立代辨

一、土地家屋賣買貸借讓渡其他金錢貸借諸般の仲介

一、土地建物鑛山測量

京城旭町貳丁目百六十二番戸理事廳横通り

金子專一

電話(取次)七八九番

京城南山町一丁目 東京流 席貸 待合 大和屋 (?)

電話一二〇五番

松岡醫院

南山町二丁目 植村病院跡

入院 隨意

電話六七五番

九州セメント 上等生石灰販賣

京城南山町一丁目 電話三四四番 山村商店

龍山元町二丁目 電話三四八番 中村運送店

第一銀行韓國總支店

株式會社

電話番號

長第一一番 國庫部、發行部、營業課、當直用

第三一番 國庫部、發行部、營業課用

第六一番 支配人、調查部、文書課用

第六二番 用度係、分析所用

第三二二番 臨時建築部用

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店 大阪、神戸、名古屋、四日市、下關

出張所 京都、伏見、横濱、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤

出張所 釜山、元山、城津、咸興、馬山、鏡城

清國安東縣出張所

右の外内外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

營業科目

活版活字鑄造 石版印刷 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 銅版 電氣版 製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築移轉仕候間從前ノ通御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

大上商店

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

和洋酒、◎精酎、穀物麵類銘茶、食料雜貨、ビール、米糀、罐詰、乾物荒物、迪卒各種特約販賣

尚御望に依り商品切手調進仕候

(電話二五一番)

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)

京城旭町二丁目六十七番戸

辯護士 岡田榮

(電話三九八番)

新疊及調進 并木…(?)

●廢物利用●

一金口貰空箱買入れ申候

京城本町四丁目 パ子リス商會

諸傘並に提灯類 印入

和洋蠟燭あり

京城明治町一丁目 大島商店

登記漢城府手續 諸願居代書 土地鑛山測量 集金取立代辨 土地家屋賣買其他 金錢貸借諸般ノ仲介

京城本町一丁目 民役所前

岡田事務所

電話七〇五番

肴四品(但吸物ハ無) ビール一本 金一圓

頗るハイカラの酌婦付

明治町二丁目 富士材木店横入

敷島

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金參百萬圓 積立及繰越金八拾萬圓

京城南大門通

株式會社 十八銀行 支店

本店 長崎市築町 (電話四二〇)

支店 京城、仁川、木浦、釜山、元山、群山

出張所 龍山 大阪、熊本、羅州

其他日本、韓國、清國、支那到る處に爲替取引先あり

韓國 日本 五島、壹岐

貯蓄預金

一口壹錢以上何程にても御預り申候

長崎貯蓄銀行代理店

(十八銀行京城支店)

銘茶 寫眞…

京城本町…丁目

日本郵船株式會社 出帆廣告

仁川海岸通 貨物及船客取扱店

郡回漕店

電話三九番 電話十番

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 五月 九日午後三時出帆

●大連、太沽、牛莊行 高砂丸 五月二十七日正午

●大連、太沽、牛莊行 出雲丸 五月二十五日午前五時

●大連、太沽、牛莊行 酒田丸 五月 十三日正午

●釜山出帆、元山、城津、浦鹽行 立神丸 五月二十六日

御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜可仕